

# 埋文にいがた

No. 60  
2007. 10. 15

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 19年度発掘調査遺跡の紹介

### 延命寺遺跡 (上越市大字下野田字延命寺258-1ほか)

延命寺遺跡は高田平野のほぼ中央、飯田川左岸の沖積地に立地しています。一般国道253号上越三和道路建設に先立ち、平成18年5月から調査をしています。平成18年は5,320㎡、平成19年は3,924㎡を調査し、その結果、飛鳥時代(7世紀前葉～中葉)、奈良時代(8世紀前葉)の遺跡であることが判明しました。

平成18年の調査では、飛鳥時代の竪穴建物や「周溝をもつ建物」、平地建物、井戸などが見つかりました。「周溝をもつ建物」は、4基の柱穴の周囲に幅約40cmの小型の溝をめぐらせ、その外側に幅約1.5mの周溝を設ける構造です。建物内からは火鑽臼と火鑽杵がセットで出土しています。奈良時代の遺構では盛土を伴う掘立柱建物、井戸、耕作溝、土坑などが見つかりました。盛土を伴う建物は、地面に約30cmの土を盛り、整地してから柱穴を掘削しています。盛土は炭や焼け土を含む土を5～10cmの厚さで積み上げています。建物は梁行2間(5.4m)×桁行5間(9m)で、柱穴には柱材が残り、柱材にはオニグルミが多用されています。また柱穴からは銅製の鈴が出土しました。奈良時代の遺物では土器のほか、木製祭祀具や木簡、刀子、帯金具などが出土しました。木簡では天平8(736)年の年号の書かれた木簡(4号木簡)や暦の断片(7号木簡)、稲の貸付を示す木簡(3号木簡)などが確認できます(写真1)。3号木簡には「野田村」という村名の記述があります。遺跡周辺には「下野田」、「上野田」という集落があり、今からおよそ1,300年前の奈良時代にさかのぼる地名が現在まで残っていることがわかりました。また、祭祀具や木簡、刀子、帯金具などが出土したことから、官衙(古代の国や郡などの役所)との関係が想定されます。

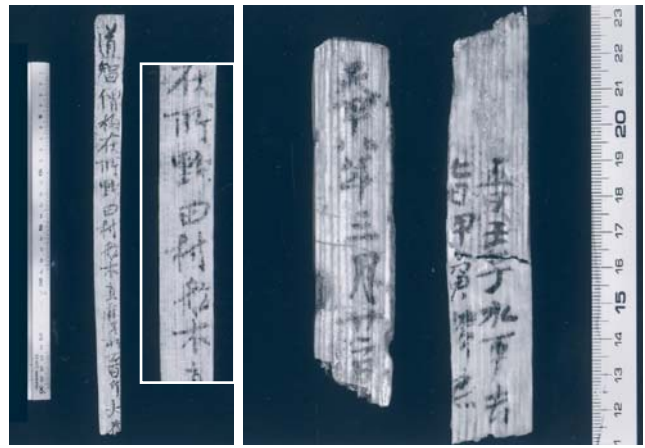


写真1 3・4・7号木簡(平成18年出土)

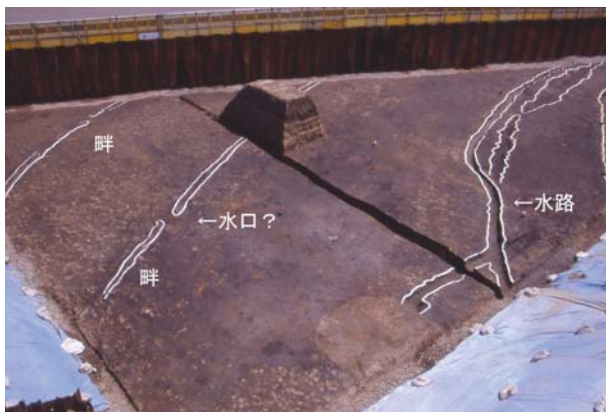


写真2 奈良時代の水田



写真3 盛土の上に建てられた建物

域と生産域が確認できたこととなります。西側の調査区では掘立柱建物や耕作溝などがみついています。掘立柱建物は梁行1間(3.3m)×桁行3間(6.5m)のもの、2間(2.8m)×2間(2.8m)のもの2棟が見つかりました。梁行1間×桁行3間の建物は盛土の上に建てられています(写真3)。一方2間×2間の建物は倉庫の可能性があります。遺物は昨年に比べ少ないですが、土器のほかに以下に記するような田地の賃貸契約を示す木簡1点(21号木簡)や祭祀具などの貴重な木製品も出土しました。今後は昨年の調査成果も加味し、遺跡の性格や構造を詳しく解明していくことが大きな課題となります。(山崎忠良)

## 延命寺遺跡出土の21号木簡について

延命寺遺跡では現在までに21点の木簡が出土しています。平成18年に20点、平成19年に1点(21号木簡)が出土しました。21号木簡は長さ48.6cm、幅4.9cm、厚さ0.6cmで、下端に損傷があるものの、ほぼ完形です。また墨の残りもよく、肉眼でも文字が判別できます。出土地点は調査区の北東側で、上端を南東に向け、表を上に向けた状態で出土しました。判読した釈文は右の木簡写真の両脇に記しました。書かれている内容は、田地の賃貸借に関するものです。頸城郡物部郷(上越市清里区)の物部多理丸の一族・物部鳥丸が野田村にもつ奈良田3段・中家田6段を、同じく物部多理丸の一族・物部比呂が伊神郷(上越市三和区)の酒君大嶋に1年に米2石1斗で賃貸しています。この契約を公的に合法化するために田領という頸城郡の役人が木簡の裏面に署名し、郡司(郡の長官)に提出されたものです。

この木簡では天平7年の年紀が判読できたことで、田地の賃貸借に関する木簡としては現存最古のものとなります。これまでは島根県出雲市青木遺跡のものが最古(天平8年)のものでした。また、「物部郷里」と郷・里が記されていることから県内で数少ない郷里制下の木簡です。郷里制とは霊亀3年(717)~天平12年(740)ごろ実施された郡の下に郷を置き、さらに郷の中を里に分けるという行政区画です。これは約20年余りしか行われなかったため、地方では希少な資料となります。このような内容を持ち、田領が作成、署名して郡司に提出された木簡が、延命寺遺跡に送られて受理され捨てられていることから、遺跡が郡の機能の一部を担った出先機関である可能性が高くなりました。

(田中一穂)

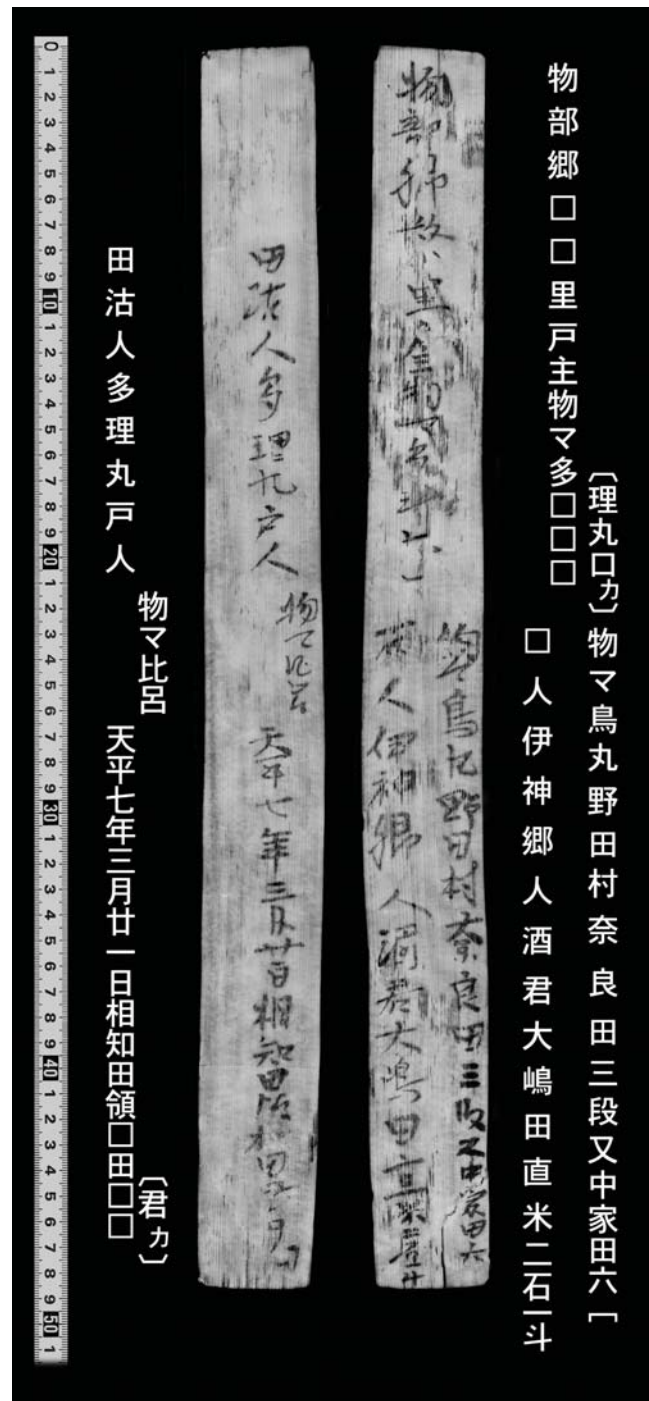


写真4 21号木簡(平成19年出土)

## せいぶ 西部遺跡(05北区南側) (岩船郡神林村大字牛屋字西部1192ほか)

日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成16年度から発掘調査を行っており、今年度は4月から11月まで調査します。今年度の調査は村道（平林・福田線）以北の約4,000㎡が対象です。

遺跡は荒川河口に近い右岸自然堤防の後背湿地に位置します。平成18年度の調査では、東西や南北方向に走る幅約70cmの帯状の高まりを検出しました。この高まりの交差点付近から、9世紀後半を中心とした土器が出土しました。また、同時期の土壌からはイネ属の珪酸体が検出されたことなどから、調査区周辺は古代の水田跡で、検出した高まりは水田域を区画するための大畦畔であったと推測されます。また、水田面は2枚（第1・2遺構面）確認できることも分かりました。第2遺構面に伴うと考えた溝からは8世紀末～9世紀初めの土器が出土しました。

今年度の調査区は、平成18年度に調査した南隣に位置しています。今回の調査では、東西・南北方向に大畦畔を配し、その中に中小の畦畔で区画された水田跡を検出しました。検出した大畦畔の幅は約70cm、それよりやや小さい中畦畔の幅は約50cm、そして最小の小畦畔の幅は20cmほどです。大畦畔の断面は角の丸くなった台形状を呈しており、水田面から50cmも高く積み上げている所もありました。また、大畦畔の交差点において、直径4mほどの範囲に土器細片や炭化物が多量に出土しました。遺構の性格は不明ですが、水田に伴う何らかの祭祀が行われた痕跡かもしれません。今回の調査で出土した遺物は、土師器、須恵器、木製品、杭、種子などがあります。

現時点で検出した中小の畦畔の残りは悪く、小さな水田区画や軸方向の異なる畦畔、そしていびつな区画なども存在します。これらが検出したとおりの水田区画なのか、水田廃棄後の環境により畦畔が崩れて結果的にそう見えるのかなどといったことを今後の調査で追求していきたいと思えます。さらに用排水施設の検出にも努め、調査区内で検出した水田の構造を明らかにしたいと考えています。

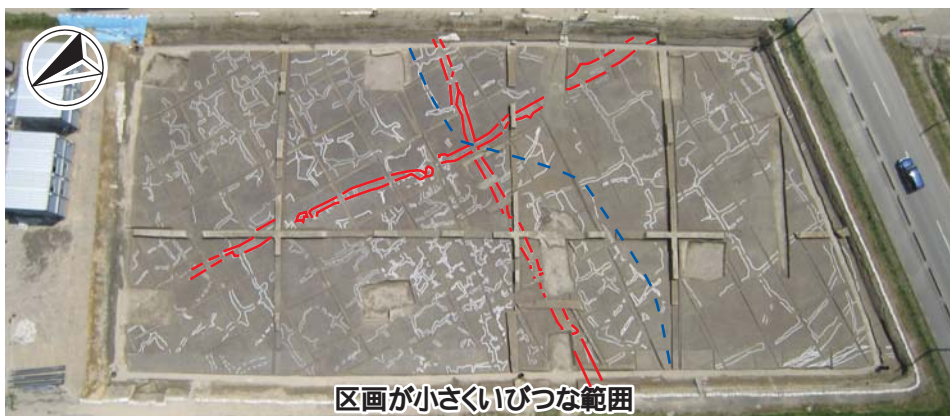
（大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部 橋澤道博）



東西大畦畔の断面(調査区西壁)



遺物の出土状況



区画が小さくいびつな範囲

調査区全景(上空から)

## かくちだ 角地田遺跡

(糸魚川市大字小見字木ノ下132-1ほか)

角地田遺跡は、能生川左岸の扇状地に位置し、標高は30～34mを測ります。北陸新幹線建設に先立ち、5月から8月までの4か月で、面積2,135㎡を調査しました。その結果、古代の遺構・遺物と中世の遺物を検出しました。

遺構は、<sup>ほったてばしらたてもの</sup>掘立柱建物、<sup>うねしょういこう</sup>畝状遺構、<sup>はいせき</sup>配石遺構、土坑、溝、自然流路等を検出しました。掘立柱建物は現在まで9棟見つかっており、規模は1間×2間～3間×5間までのものが確認できます。畝状遺構は畑の耕作跡と考えられている遺構で、十条ほどがほぼ平行するように並んでいます。

遺物は、古代では土師器の椀・甕・銅や須恵器の杯・甕・壺が出土し、中世の遺物も珠洲焼等が出土しています。また、墨書土器や製塩土器も出土しました。

墨書土器には口縁部に「臣」の文字があり、遺跡付近の地名「小見」に相通ずるものがあります。製塩土器は塩を得るために海水を煮沸した土器とされています。その他、漁撈の網錘として用いる管状土錘や鉄滓・羽口等の鍛冶に関連する遺物も見つかりました。これらの点から、本遺跡では畑作・漁撈・製塩・鍛冶の様々な生業を営んでいたと考えられます。



掘立柱建物

## ぜん なみ みなみ 前波南遺跡

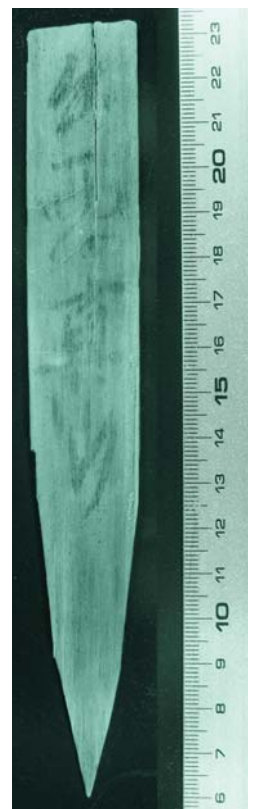
(糸魚川市大字大和川字前波)

前波南遺跡は一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年度から発掘調査を行っています。海岸砂丘と丘陵間の沖積低地に立地し、昨年度の調査の結果、古墳時代中期と奈良時代を中心とする遺跡であることがわかっています。今年度は昨年度の調査区の南側、約1,300㎡を対象に調査を実施し、8月に調査を終了しました。

検出された遺構は、溝1条、ピット十数基のほか、旧流路2条、不整形な溝状の浅い落ち込みが数条です。この浅い落ち込みは自然に形成された可能性もありますが、底面が踏み荒されたようになっていることや、南東-北西方向に長軸をもつなどの共通性があります。調査区中央の旧流路からは、土器はほとんど出土せず、伐採や枝打ち痕跡がある自然木を何本も検出しました。西側から流れる溝はこの旧流路に流れ込み、合流付近から古代の可能性のある木簡や田下駄が出土しています。木簡には「出雲真山」と墨書きされており、人名ではないかと推測しています。調査区東側の旧流路からは杭状・棒状・板状などの加工材が多量に出土しました。一緒に出土した土器から、大半が古墳時代の木製品と考えています。この木製品は意図的に集積されたものか、洪水などの流れ込みによるものか、今後検討する必要があります。また同じ旧流路からは、古墳時代の<sup>うすだま</sup>臼玉・<sup>くだたま</sup>管玉・<sup>まがたま</sup>勾玉の成品・未成品が十数点出土しています。

今年度の調査範囲は集落の居住域ではありませんでしたが、古代や古墳時代における低地や河川の利用方法の一端を窺うことができます。

(石川智紀)



木簡

## ひがし こう や 東興屋遺跡

(村上市大字東興屋字宮ノ前)

遺跡は門前川左岸の丘陵上に立地し、標高は32～35mを測ります。日本海沿岸東北道自動車建設に伴い平成19年4月～7月にかけて調査を行い、縄文時代中期前半の小規模集落であることが分かりました。

遺構は、縄文時代中期前半の竪穴住居2軒、竪穴状遺構1基、中期後半から後期と考えられるTピット1基、詳細時期不明の土坑4基、ピット92基です。第1号竪穴住居は、平面形が長軸6m×短軸5mほどの楕円形または卵形を呈しています。中央付近に地床炉をもち、支柱穴は現時点では4本と考えています(写真1)。遺物は、縄文時代中期前半の土器・石器です。土器の時期は大木7b・8a式期です(写真2)。石器は磨製石斧・石匙・石皿・磨石・石錘が出土しました。

今回の調査は、当該地域において、集落の立地・構造および住居形態を知る上で貴重な調査事例となりました。(加藤建設㈱ 石川博行)



写真1 第1号竪穴住居



写真2 縄文土器



### 「足型付き土版 子を想う親の心」

8月23日付、『新潟日報』で報道されたように新潟市江南区西郷遺跡で「足型付き土版」が出土しました。全国的に見ても類例は非常に少なく、県内では山北町上山遺跡出土の足型(国指定重要文化財)に次いで2例目となります。今回はこの遺物について調べてみました。

#### 足型付き土版とは

小判形の粘土板に乳幼児や子供の足を押し付けて焼き上げた縄文時代の土製品です。文様を施したり、孔を開けたものがあります。孔に紐を通して吊り下げたものと考えられます。中には手のひらを押し付けた「手型付き土版」もあります。縄文人の身体の一部が記録されているという点や当時の信仰・精神生活を考える上で重要な遺物です。

#### 分布

20遺跡(手型のみ1遺跡)で出土し、50点余りを数えます。北海道南部～青森県を中心に、東北地方南部や新潟県にまで分布します。北限は北海道余市町入舟遺跡、江別市吉井の沢2遺跡となります。南限はこれまで県内山北町上山遺跡例とされていましたが、西郷遺跡の出土からその範囲はさらに南下しました。出土の特徴として手型付き土版も出土した例が6遺跡、複数個の出土した例が9遺跡あります。また、北海道の早期の出土例はすべてお墓からです。



足型付き土版

## 手型・足型付き土版出土遺跡の分布



### 手型・足型付き土版出土遺跡一覧

市町村	遺跡名	時期	備考
1 函館市	豊原4遺跡	早期	足型・手型?
2 函館市(旧南郷町)	垣ノ島A遺跡	早期	足型・手型
3 千歳市	美々7遺跡	早期	足型
4 千歳市	美々5遺跡	前期	足型
5 恵庭市	柏木川4遺跡	晩期	足型・手型
6 苫小牧市	美沢3遺跡	早期	足型
7 江別市	吉井の沢2遺跡	早期	足型
8 江別市	七丁目沢2遺跡	後期	手型
9 余市町	入舟遺跡	後期	足型・手型
10 本古内町	新道4遺跡	後期	足型
11 青森県六ヶ所村	大石平遺跡	後期	足型・手型
12 青森県六ヶ所村	上尾絞遺跡	後期	足型
13 青森県青森市	三内丸山遺跡	後期	足型
14 青森県名川町	虚空蔵遺跡	晩期	足型
15 青森県三戸町	中平遺跡	後期	足型
16 秋田県鹿角市	大湯環状列石	後期	足型
17 岩手県滝沢村	湯舟沢遺跡	後期	足型
18 山形県村山市	西海湖遺跡	中期	足型
19 新潟県山北町	上山遺跡	後期	足型
20 新潟県新潟市	西郷遺跡	縄文・弥生前期	足型

### 時期

縄文時代早期を中心とするものと、後期以降を中心とするものに大きく分かれます。北海道では早期後半(約6,500年前)の垣ノ島A遺跡をはじめとする諸例がほとんどで、青森県以南は後期以降がほとんどです。西郷遺跡は晩期～弥生時代前期(約2,500年前)に所属し、最も新しい時期のものであります。

### 用途

あまりにも出土例が少ないために、これまで余り研究されてきませんでした。したがって、未だ明確な結論を用意できていませんが、次のように推定されています。

幼児の初歩きなどの祝いや通過儀礼の祭りの道具とするもの。

孔に紐を通して吊り下げたと推定されるものが多いことから、子の健やかな成長を願う護符(お守り)とするもの。

早期の出土は墓であることから死者の副葬品とするもの。

いずれにしても子を想う親の気持ちが形となったものと考えられます。それは現在でも乳幼児の足型・手型を色紙に残し、健やかな成長を願う親の気持ちに通じるものではないでしょうか。(高橋保雄)

(参考文献)

忽那敬三 2006 「手形・足形付土製品の性格」『掘り出された子どもの歴史』明治大学博物館

(財)北海道埋蔵文化財センター 2005 『北の縄文文化回廊展』ホームページから 北海道生活局道民活動文化振興課

谷島由貴 2007 「柏木川4遺跡」『発掘された日本列島2007』文化庁 ほか多数



色紙に残された現代の足型

# 埋文インフォメーション



☆おいでをお待ちしています



★埋文センター展示室入り口の  
情報コーナーです。来館の際は  
ぜひご覧ください。

ホームページにアクセスしてね

<http://www.maibun.net>

★下記のメニューをご覧ください。

- What is 埋文事業団
- 発掘調査ガイド
- まいぶんちゃんの歴史教室
- 発見！にいがたのむかし
- 埋文事業団の刊行物
- 広報紙「埋文にいがた」
- おしらせ
- リンク集

## 資料室の 利用案内



埋文センター2階の資料室では、県内外の埋蔵文化財に関する  
図書等を多数所蔵しています。閲覧を希望される方は、資料室ま  
でお申し出ください。

開室時間：平日(月曜日～金曜日)8:30～17:00  
閉室日：土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

- 資料のコピー  
実費負担にて資料のコピーを受付けています。  
コピーを希望される方は、職員までお申し出ください。
- 料金：白黒コピー……1枚 10円  
カラーコピー……1枚 40円



火おこし体験

館内見学

煎炊き体験

### 学校との連携について

火おこしに使う道具  
「まいきり」

当事業団は、埋文センターでの学習に協力しています。  
また、要請により職員を派遣する出前授業も行っています。  
ご相談ください。

## 埋文にいがた

### 「定期送付について」

当事業団では、埋蔵文化財に対する  
理解を深めていただくために最新の発  
掘調査情報や、県内の史跡などを紹介  
した広報紙「埋文にいがた」を、年4回  
(6・9・12・3月)発行しています。  
定期送付をご希望の方は、右記の要領で  
お申し込みください。

#### 申し込み方法

- ①当館2階の資料室へご来室ください。
  - ②下記の係までお電話ください。
- ☆受付時間：平日(月曜日～金曜日)8:30～17:00  
※送料のみ、切手でいただきます(「埋文にいがた」の代金は無料です)。

#### 申し込み先

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
「埋文にいがた定期送付受付」係  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL: 0250-25-3981 FAX: 0250-25-3986

☆「埋文にいがた」は、1階ロビーのテレビラックにあります。自由にご覧ください。  
☆「埋文にいがた」は、ホームページからもダウンロードできます。

## 県内の遺跡・遺物58

うま だか  
**馬高遺跡(昭和54年国史跡)出土品300点(国重要文化財)**  
 (遺跡所在地：長岡市関原町1丁目字中原)

馬高遺跡は、昭和54年、国史跡に指定された縄文時代中期(約5,000～4,000年前)の大規模な集落跡で、「**火焰土器**」発祥の地として全国的にも著名です。近藤勘治郎・近藤篤三郎父子による発掘調査により、縄文時代中期を中心とする遺物や石組炉をもつ住居跡が確認されました。上記の「**火焰土器**」とは、昭和11年12月31日に近藤篤三郎氏によって発見され、復元された一つの土器につけられた愛称で、その形が燃え上がる焔ほのおに似ていたことから、この名称が生まれました。

この「**火焰土器**」と同じ特徴(鶏冠状把手や鋸歯状突起など)をもつ土器は信濃川上・中流域を中心に県内各地、福島県等で出土しており、これらの土器は「**火焰型土器**」と呼ばれるようになりました。このほか馬高遺跡では、王冠型土器・深鉢・土偶・滑車形耳飾(みまかざり)・三角形土版(とぼん)・三角壙形土製品(とうがた)・玉(たま)・石鏃(せきぞく)・小型石槍(せきそう)・石匙(いしさじ)・石棒・打製石斧・磨製石斧・凹石(くぼみ)・石皿などの多彩な遺物が出土しています。「**火焰土器**」は平成2年に国重要文化財に指定され、その他の主要な土器・石器等を合わせた300点が平成14年に追加指定を受けています。

近年、史跡整備の基本的なデータを得るために長岡市教育委員会が発掘調査を行い、遺跡の北側と南側に大小二つの集落跡が確認されました。特に北側の集落跡では、広場を中心に住居・貯蔵穴・墓穴などの施設が馬蹄形(U字形)状にめぐる環状集落の姿が明らかになっています。なお、馬高遺跡で発見された主な出土品は、長岡市立科学博物館で見ることができます。

写真提供：長岡市立科学博物館

1 「**火焰土器**」(火焰A式1号深鉢土器 高さ30cm)2 **王冠型土器**(高さ28.5cm)3 **大型土偶**(高さ18cm)4 **三角形土版**5 **三角壙形土製品**

## 埋文にいがたNo 60

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
 TEL (0250) 25-3981  
 FAX (0250) 25-3986  
 e-mail : niigata@maibun.net  
 URL : http://www.maibun.net  
 印刷 阿部印刷株式会社